

愛 知 県 知 事 殿

東浦町長 日 高 輝 夫

検証実施報告書

令和6年8月21日付け6災対第476-7号で事業を決定された後、新たに整備した
ペット受入体制を基に検証を実施しましたので、令和6年度ペット同行避難対策事
業実施要領第9の規定に基づき、下記のとおり提出します。

記

実施日	令和6年 11 月 17 日(日) 訓練実施 令和7年2月 26 日(水) 実施後の指導
実施場所	東浦町立森岡小学校(プール)
内容	1 参加者 飼い主 10 名 犬:8頭、猫:5匹 協力団体 愛知県動物愛護センター知多支所 東浦地域ねこの会 三丁公園わんずらぶ 2 検証方法 町の総合防災訓練の一環として実施 実施後の指導

	3 検証項目 (1)新たに整備したペット受入体制の内容及びその評価 ・初動期(災害発生当日) a 避難所運営のために使う場所の指定 ○ ペットの飼育場所の考え方 当初は、避難所の未使用場所で、トラブルを避けるため人と分離した場所と考え、漠然とプールを指定していた。 現地を確認していただき、猫の場合は、仕切られた場所でケージから出して運動させる必要があるとの助言を受けて、猫の飼育場所をプール管理棟に変えた。 実際に検証実験をしたところ、猫の飼育場所のプール管理棟の使用については棚へケージを置くこともでき、扉があり容易に人が入れない状況であったため、有効な方法であると考えられた。ただし、町が所有するケージなく、また、猫がケージから出された時の看板がないという意見があった。これらについては、本事業により各学校避難所に3つずつ設置できるケージの支援を受けるとともに、看板を作成し改善すると良いと考えられた。 以上のことから、ペットの飼育場所を考える際には、猫の飼育場所に着目して考えることが重要であると考えられた。 b 避難してきた人々の受け入れ場所の指定 ○ペット飼養者の受け入れ場所の考え方 当初は、他の避難者と同様に体育館を指定していた。 今回、ペット飼育場所のプールに体育館が隣接している点で場所的には問題ないという助言を受け、変更しなかった。 今回の検証実験では、初めての試みだったため、ペットの周りに常に避難者ががついている状態だった。今後は、飼養者がペットから離れて訓練が行える体制を整えると、新たな課題や改善策を検討できると感じた。 以上のことから、ペット飼養者の受け入れ場所を考える際には、ペットに近い場所に飼養者を避難させることに着目して考えることが重要であると考えられた。 c 避難してきた人々の受付 ○ペット連れの避難者の受入方法の考え方 今回は、通常の避難者と同様の場所でペット同行者の受付を別にして、実際に検証実験をしたところ、一般の避難者と同様の場所で受付を待つ避難者もあったため、高い位置に分かりやすい看板を設置すると、間違えずに対応でき
--	--

と思われた。

以上のことから、ペット連れの避難者の受入方法を考える際には、一般避難者と確実に分離する点に着目することが重要であると考ええる。

実施後の指導では、一般避難者受付とペット避難受付の連携方法について指摘があったが、今後ペット避難受付場所で人とペットの避難を同時に行うことを検討することとした。

d 利用者の組分け

○ペット飼い主のグループ分けの考え方

当初は、特段グループ分けはしていなかった。

今回ペットの飼い主者同士でグループを作るとよいという助言を受けて、ペット飼い主のみでグループを構成することとし、グループの中でも役割分担を行った。

実際に検証実験をしたところ、犬と猫のペットの種類ごとに指示役を申し出てくれる方がいたため、グループごとの話し合いがスムーズに行え、ペットの種類ごとのグルーピングは有効な方法であると考えられた。

また、総合的なペット飼育場所への誘導看板の設置等については、合同で行えるが、犬と猫では、飼育方法が異なるため、一緒に飼育場所を設置していくことが困難であるので、別で行うことが良いという意見があった。これらについては、意見のとおり対応が必要であると考ええる。

以上のことから、ペット飼い主のグループ分けを考える際には、ペットごとのグルーピングに着目して考えることが重要であると考ええる。

e 情報収集・伝達手段の確保

○ ペットに関する情報収集・伝達手段の考え方

当初は、その場で話し合い対応するという考えであった。

今回、情報共有するために掲示板の設置が有効という助言を受けて、プール管理棟の壁に掲示板を設けることとした。

実際に検証実験をしたところ、掲示板を設置することで、設営の際に終了した事項を記載し共有できたため、有効な方法であると思われた。

また、ペットごとにグループを分けたため、全体での情報共有が必要といった意見もあったため、全体で検討すべきことは、それぞれのリーダー的な人が意思疎通を取ることや、掲示板をより利用することにより、避難者誰でも情報共有できるように改善を講じると、情報共有できると考える。

実施後の指導においても、掲示板を利用し、ペット飼育場所の情報共有が有効であると指導があったため、その点周知が必要と考える。

f 備蓄している水や食料、物資の確認・配給

○ 備蓄物資の検討

現在はペット避難に係る物品の備蓄はない。

助言等により、次の物品を新たに備蓄(増量)することとした。

新たに備蓄した物品一覧

No.	種類	仕様	その仕様とした理由(その商品を選んだ理由、助言内容)
1	油性ペン	-	筆記具として
2	ハサミ	-	ロープ等の切断用
3	ロープ	編み込みビニールひも	丈夫なものを準備
4	ブルーシート	4m×4m程度	雨天時雨除け
5	テープ	ガムテープ 養生テープ	ミッションに必要なため

実際に検証実験をしたところ、これらの物品は有効であった。また、新たに次の物品が必要であると思われた。

検証により必要と思われた物品一覧

No.	種類	仕様	必要と思われた理由
1	ペットシート		ケージ内設置、トイレ用
2	懐中電灯		夜に設営の場合
3	防災ラジオ		ペット飼育場所での情報収集用
4	ケージ		放浪動物用
5	リード		放浪動物用
6	ビニールひも		ブルーシート設置用

なお、不要と思われた物品も確認された。

不要と思われた物品一覧

No.	種類	仕様	不要と思われた理由
1	ロープ	編み込み式	太くて使いづらい

○ 備蓄物資の活用・飼育場所

現在は、特になく、飼い主の備蓄物品にのみ依存していた。

実際に検証実験をしたところ、ケージの不足や、備品の不足が判明したため、ケージとスターターキッドとして準備する備品にテープなどを必要数準備し、これらの置き場所を誰でもわかる場所とするため、各学校避難所の防災倉庫にすることとした。

実施後の指導では、飼い主で備蓄してもらうことが一番重要なので、その点を今一度周知し、「自助」自分で準備することを飼い主に理解を深めてもらう必要がある。

g 安全対策

○ 逸走防止対策

現在は、プールをペットの飼育場所とし、猫はケージへ入れ、犬はケージもしくはリードを縛るとともに、プールの格子扉を閉めることにより逸走防止策としていた。

現地を確認していただき、猫の場合は、仕切られた場所でケージから出して運動させる必要があるとの助言を受けて、猫の飼育場所をプール管理棟に変えた。

実際に検証実験をしたところ、猫の飼育場所のプール管理棟の使用については棚へケージを置くこともでき、扉があり容易に人が入れない状況であったため、有効な方法であると考えられた。ただし、猫がケージから出された時の看板がないという意見があった。これらについては、看板を作成し改善すると良いと考える。

○ 咬傷事故対策

現在は、プールをペットの飼育場所とし、猫はケージへ入れ、犬はケージもしくはリードを縛るとともに、プールの格子扉を閉めることにより、容易に人と関われないように咬傷事故対策としていた。

現地を確認していただき、場所の特性上問題ないという助言を受け、変更しなかった。

実際に検証実験をしたところ、プールをペットの飼育場所とすることは、他の避難者が容易に立ち入らない場所であったため、有効な方法であると考えられた。

○ 動物アレルギー対策・臭気対策

現在は、プールをペットの飼育場所とし、容易に人と関われないように人の避難スペースと分離することにより動物アレルギー・臭気対策としていた。

現地を確認していただき、場所の特性上問題ないという助言を受けた。

実際に検証実験をしたところ、プールへ他の防災訓練参加者が、入ってくる場面は見受けられなかったものの避難所と分離は、有効であると考えた。

○ 鳴き声対策

現在は、プールをペットの飼育場所とし、猫はケージへ入れ、犬も可能な限りケージに入れることとし、鳴き声対策とした。

現地を確認していただき、プールから民家が近いため、猫の飼育場所はプール管理棟に変更し、犬の飼育場所はひさしとしたため、少しでも鳴き声対策の一つとしてブルーシートを設置する方法を取った。

実際に検証実験をしたところ、猫の飼育場所を管理棟にする点は、有効な方法であると考えられた。ただし、ブルーシート設置については高所のため、非常に難しく、高所作業できるように脚立やいすがあるとよいという意見があった。これらについては、管理棟にあるイス等を利用することで改善すると良いと考えられた。

実施後の指導においても、実際にある物品だけで対応するという認識を持ってもらうことが大切とのことだったため、方針を変えずあるもので対応することとする。

・展開期(2日目～1週間)

a ペット管理の方法

現在は、特に定めはなく、飼い主の管理にのみ依存していた。

今回管理のためのルール作りまでは行わなかったが、ペット飼育場所の掲示板設置場所や、ペット飼育場所所のごみ(フン等)についての集積場所を定めた。

実際に検証実験をしたところ、動物の種類ごとで考え方も違うことから、ペット飼育場所内の共有すべき事項を掲示板でやり取りすることは良いことだと、訓練参加者から意見があった。

今後、ペット飼育場所内で話し合うべき事項の例をスターターキットに入れる等の対応が必要と感じた。

以上のことから、ペット管理のルールや手順を考える際には、避難者同士しつかり話し合うことに着目して考えることが重要であると考えられた。

b 支援ニーズの把握、支援要請

現在は、ペットに関するニーズ把握を積極的に行っていなかった。

今回、検証実験を行ったところ物資や支援の要望は出てきた。そのとりまとめについては、動物ごとのグループの代表者で取りまとめることが最善と感じたため、その点ルール決めをしていきたいと考える。

実施後の指導においては、グループの代表が多くの要望を出してくる事例があることから、自助について改めて周知を行い、飼い主自身での対策を考えることが必要であると考え。

・安定期(1週間目～3週間程度)

a 避難所運営のための業務の継続(安定期)・集約・統合・閉鎖の準備

飼い主全体で話していけるような態勢について検討が必要である。その点も運営ルールの例で示すことが必要と感じた。

(2)施設の特徴を考慮して取り組んだ内容及びその評価

(i)本町では既に避難所に指定している小中学校で避難者とそのペットを受け入れることとしているため、今回の検証実験においても総合防災訓練を行う小学校で実施した。検証実験の結果、小学校でのペットの受け入れには、特に次の点を考慮に入れてペットの飼育場所を検討することが重要であると考えられた。

考慮すべきこと	対応策
施設の現状復旧のしやすさ	プール内の物だけを利用し、学校内の他の場所から備品を持ち出さない
授業再開に対する影響	プール内だけを利用
人とペットのエリアの分離	プール内だけを利用

本校の特徴として、校舎、体育館及びプールが非常に近くにあり、プールが容易に出入りできないように囲われていることが挙げられる。これは、ペットを飼育するうえでは、ペットと人がしっかり分離でき、かつ、飼い主の避難場所からペットの飼育場所が近いため、プールをペット飼育場所とした。

また、学校への入り口は複数箇所あるが、入り口に看板を設置し、ペットと共に避難した避難者がペット受付へ来られるように看板の設置等の対応した。受付場所については、迷わないように一般の避難者受付の並びとし、ペットとのトラブルを避けるため、少し離れた場所に設置することとした。

	4 検証の結果、新たに産出した問題点とその改善案 今回の検証により、ペットの受入体制を確立するためには、ペット飼養者が災害時の対応や避難に対して意識を持つことが必要であり、あらかじめ地元の人への情報共有を行い、地域で避難所を設置・運営する意識をもって取り組むことが重要であると思われた。 今回の訓練を行った避難所は、閉鎖的な空間でペットの飼育場所を準備できたが、野ざらしのペット飼育場所しかない避難所は、猫の避難が難しいなどが挙げられたため、他の避難所においてもプールをペット飼育場所とすることを検討することとした。 また、夏の避難時において暑さなどにより、飼育環境が劣悪になるという点を不安視する声もあった。 なお、今後は、小中学校避難所で指定しているペット飼育場所の再検討をするとともに、避難所を利用する地域住民への「自助」に関する啓発や情報提供が不可欠である。このため、町として、今後の総合防災訓練において、ペットの同行避難訓練を継続するとともに、狂犬病の集合注射やペットのボランティア団体におけるイベントなどを通じて、積極的に発信していくことが必要であると考えられた。
--	---

※ 検証の様子が分かる写真を添付すること。

※ 関係機関との協議書、改訂した避難所運営マニュアルなど、事業により作成された成果物を添付すること。

避難所に到着した飼い主様へ

**このスターターキットをあけた方は、
上から順番にカードの指示に従ってください。
ペットの受入れ準備が開始されます。**

**ペットの飼育スペースをいち早く設置することで、
避難所の混乱を防ぐことができます。**

他の飼い主にも声をかけ、みんなで協力していきましょう。

ミッションカード No.1

ペット同行避難者どうし、声をかけ、協力して作業を進めてください。

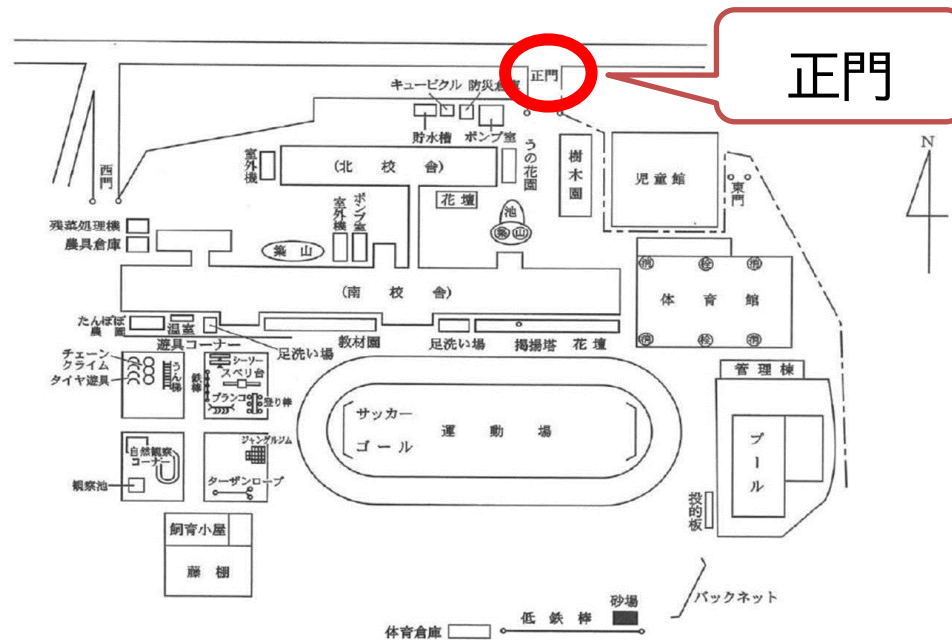
同行したペットを仮に置く場所を決め、作業の間、管理する役割の人に居てもらうかペットのそばにこのカードを掲示しておきます。

**※作業が終わったら、このミッションカードは、
「ミッション終了」と書いてあるビニール袋に入れて、次のミッションに進みます。
ミッションカードNo.は飛んでも構いません。**

ミッションカード No.2

この 2 枚の案内掲示を、

正門の分かりやすい場所に貼りましょう。



※作業が終わったら、このミッションカードは、

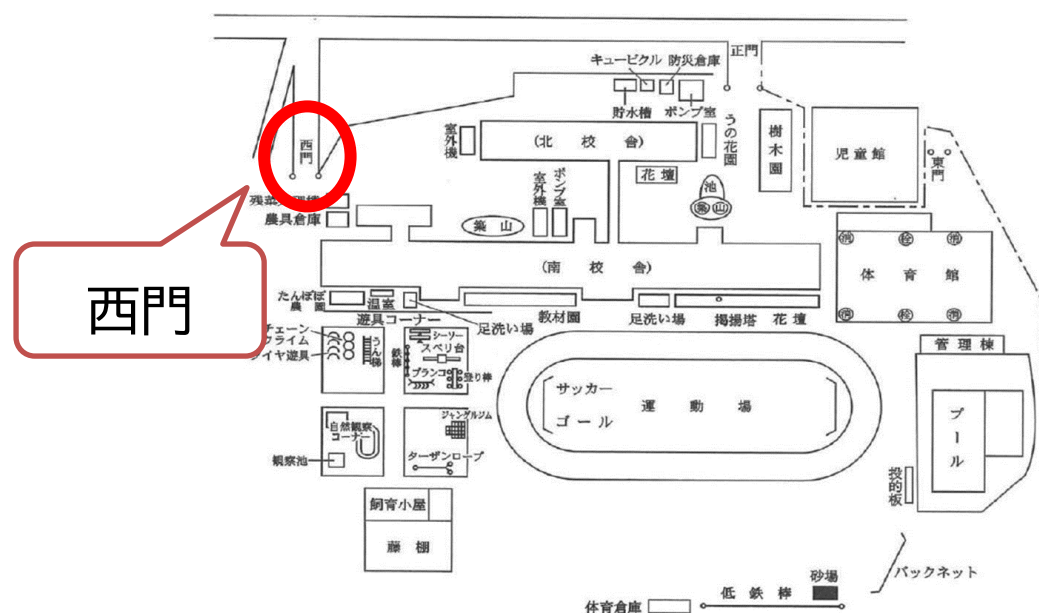
「ミッション終了」と書いてあるビニール袋に入れて、次のミッションに進みます。

ミッションカードNo.は飛んでも構いません。

ミッションカード No.3

この 2 枚の案内掲示を、

西門の分かりやすい場所に貼りましょう。



※作業が終わったら、このミッションカードは、

「ミッション終了」と書いてあるビニール袋に入れて、次のミッションに進みます。

ミッションカードNo.は飛んでも構いません。

ミッションカード No.4

ペット飼育スペースを設置します。

プールの入り口に掲示物を貼ります。

※作業が終わったら、このミッションカードは、

「ミッション終了」と書いてあるビニール袋に入れて、次のミッションに進みます。

ミッションカードNo.は飛んでも構いません。

ミッションカード No.5

**ペット飼育スペース②を設置します。
プールのひさしと更衣室に犬・猫に分けて
掲示物を貼ります。**



鍵が開いてない場合には、避難所の担当者の開錠を依頼します。

※作業が終わったら、このミッションカードは、

「ミッション終了」と書いてあるビニール袋に入れて、次のミッションに進みます。

ミッションカードNo.は飛んでも構いません。

未終了の場合は、「未終了」と書いてあるビニール袋に入れて、ミッションを継続します。

ミッションカード No.6

ペット飼育受付を設置します。

**使用できる机(1台)や椅子(2脚)を借りてきて
ペット飼育スペース①のそばに配置し、
必要資材を並べ、掲示物を貼ります。**

※作業が終わったら、このミッションカードは、
「ミッション終了」と書いてあるビニール袋に入れて、次のミッションに進みます。
ミッションカードNo.は飛んでも構いません。
未終了の場合は、「未終了」と書いてあるビニール袋に入れて、
ミッションを継続します。

ミッションカード No.7

ペットの受け入れを開始します。

- 1) 飼い主は名簿に必要事項を記入後、**
- 2) 犬はペット飼育スペースに係留し、
犬のそばに動物情報を貼ります。**
- 3) 猫はプールの更衣室にキャリーバッグごと
入れて、猫のそばに動物情報を貼ります。**

※ミッションカード No.7-2を確認してください。

※受け付け作業中、このミッションカード机上に掲示しておきます。

ミッションカード No.7-2

**ガムテープに名簿の番号と必要事項を記入し、
リードなどに留めます。**

**キャリーバッグに入っている場合には、
ガムテープに名簿の番号と必要事項を記入し、
キャリーバッグにも貼ります。**

※受け付け作業中、このミッションカード机上に掲示しておきます。

ミッションカード No.8

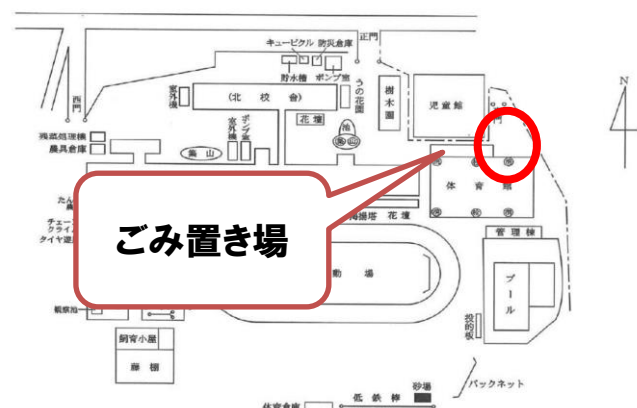
**ペット関連掲示板を設置します。
避難所運営本部に許可を得て、
「ペット関連掲示板」の表示を貼りましょう。**

**※作業が終わったら、このミッションカードは、
「ミッション終了」と書いてあるビニール袋に入れて、次のミッションに進みます。
ミッションカードNo.は飛んでも構いません。
未終了の場合は、「未終了」と書いてあるビニール袋に入れて、
ミッションを継続します。**

ミッションカード No.9

ペットの排泄物の廃棄場所を決めます。

避難所運営本部に許可を得て場所を決めたら、
「ペット関連掲示板」に廃棄場所の案内を貼りましょう。



※作業が終わったら、このミッションカードは、
「ミッション終了」と書いてあるビニール袋に入れて、次のミッションに進みます。
ミッションカードNo.は飛んでも構いません。
未終了の場合は、「未終了」と書いてあるビニール袋に入れて、
ミッションを継続します。

ミッションカード No.10

**その他の掲示物を必要箇所に掲示します。
避難所内の動線や排泄のルールなど
避難所運営本部と話し合って決めたことを
ポスターにして飼い主に周知します。**

**※作業が終わったら、このミッションカードは、
「ミッション終了」と書いてあるビニール袋に入れて、次のミッションに進みます。
ミッションカードNo.は飛んでも構いません。
未終了の場合は、「未終了」と書いてあるビニール袋に入れて、
ミッションを継続します。**

ミッションカード No.11

**避難者の出入りが落ち着いた頃を見計らい、
飼い主が集まる機会を持ちます。**

**これからのペット飼育スペースの運営ルールなどを
確認します。**

**※作業が終わったら、このミッションカードは、
「ミッション終了」と書いてあるビニール袋
に入れて、次のミッションに進みます。**

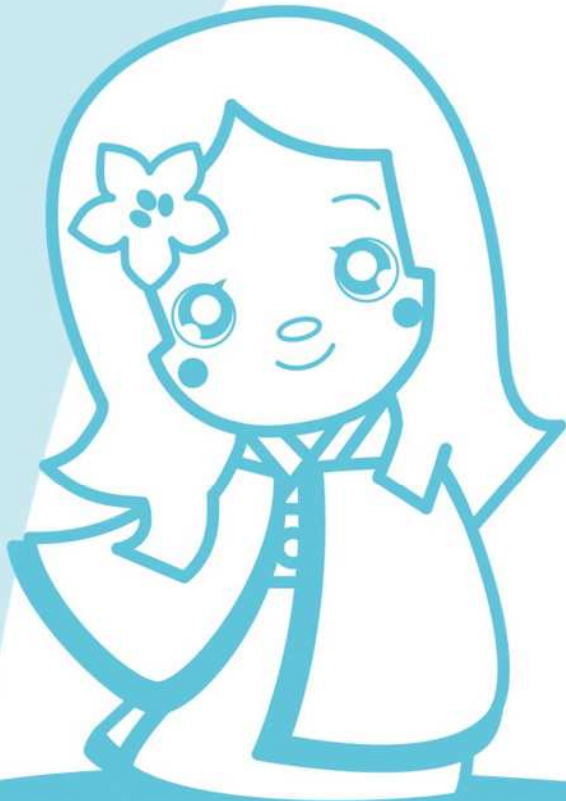
ミッションカードNo.は飛んでも構いません。

**未終了の場合は、「未終了」と書いてあるビニール袋に入れて、
ミッションを継続します。**



東浦町

ペット同行避難所設営訓練



東浦町 環境課



ペット避難の方向性①

●東浦町では、地域防災計画等に基づき災害対策を進めています。しかし大規模災害では行政自体の機能が麻痺する可能性もあり、行政機関が取り組む「公助」だけではなく、住民自ら災害に備える「自助」、地域やグループで防災に取り組む「共助」を充実させることが重要との認識が高まっている

●特にペットの防災対策では、避難所運営者がペットより人への対応を最優先に進めざるを得ない事情もあることから、飼い主が自ら避難所でのペット受け入れやルールづくりに協力が必要



ペット避難の方向性②

そこで・・・

「自助」

平時に飼い主がフード等の備蓄・しつけをする

「共助」

地域の飼い主同士が協力できるような体制

「公助」

自治体が避難所の受入れ体制を整備

この3つうまくかみ合うよう、
事前に準備を進めておくことが重要と考えています。



ペット避難の方向性イメージ

自助



避難所の確認・情報収集

キャリーバッグ・ケージ・フードの準備、マイクロチップの装着

共助



スターターキット

防災訓練等を通じて、地域の飼い主同士の交流

避難所でのペットの受入れと自主的な飼育管理

公助



ペット受入れ体制の整備

スターターキットの準備

ペット同行避難訓練の実施

ペット同行避難の周知



本訓練の目的・内容

◎目的

「避難所設営・運営の問題点を洗い出す」

◎内容

①避難所設営方法の紹介

「公助」の部分として

②避難所のペット受入れ体制について

「共助」の部分として

- ・飼主同士が協力し、「スターターキット」を用いて避難所のペット受入れを進める

③避難グッズの展示

「自助」の部分として

④総括

問題点や必要なこと・ものを確認し今後活かす



「スターターキット」とは？

「スターターキット」・・・

避難所のペット受入れに必要な 資材や説明書をまとめて避難所に保管しておく取組です。



メリット

避難所に最初に避難した飼い主らがペットの受入れを自主的に始められるようにするもので、ペット同行避難訓練などで飼い主がキットの扱いに慣れておけば、避難所運営側はペットの受入に関する負担を最小限にすることができます。



①避難所の受け入れ体制

①受付

他の避難者と同じ場所で別名簿で行う

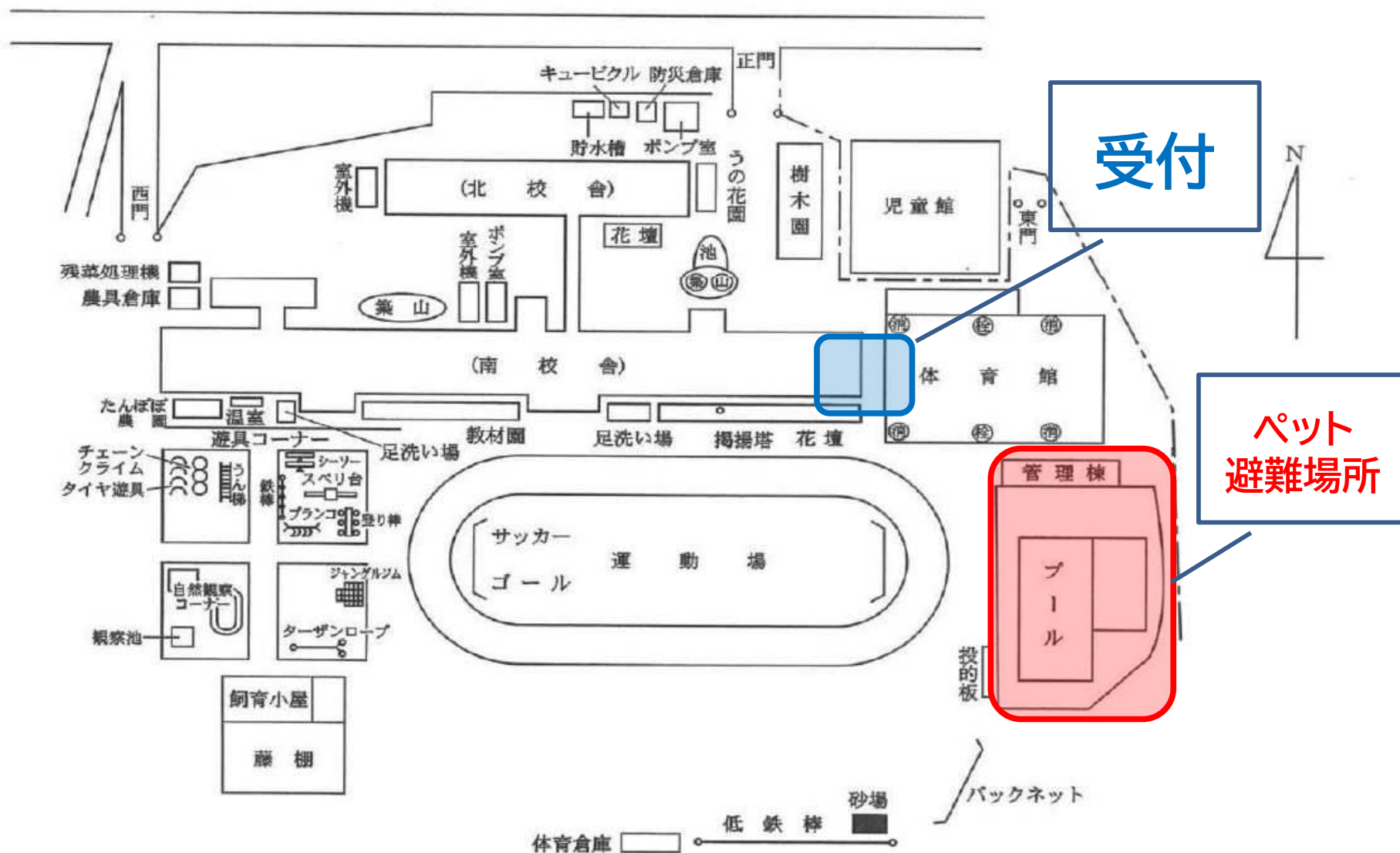
②ペットの避難場所 「プールの施設全面」

犬…屋根のある部分でフェンスにリードを縛る

猫…管理棟の西側の部屋の棚にケージを設置



①避難所の受け入れ体制(場所の地図)





②飼い主同士が協力して避難所のペット受入れ

①スターターキットの内容確認

ミッションカードに沿って
避難所内に貼り紙を貼り付ける

②必要なこと・ものを洗い出す

「公助」最低限のものは準備できますが、「自助」
「共助」で行う点も考えて

◎愛知県動物愛護センター知多支所の方に

避難の際に必要な物品を展示しますので参考にしてください



②飼い主同士が協力して避難所のペット受入れ

①スターターキットの内容確認 ミッションカードの内容

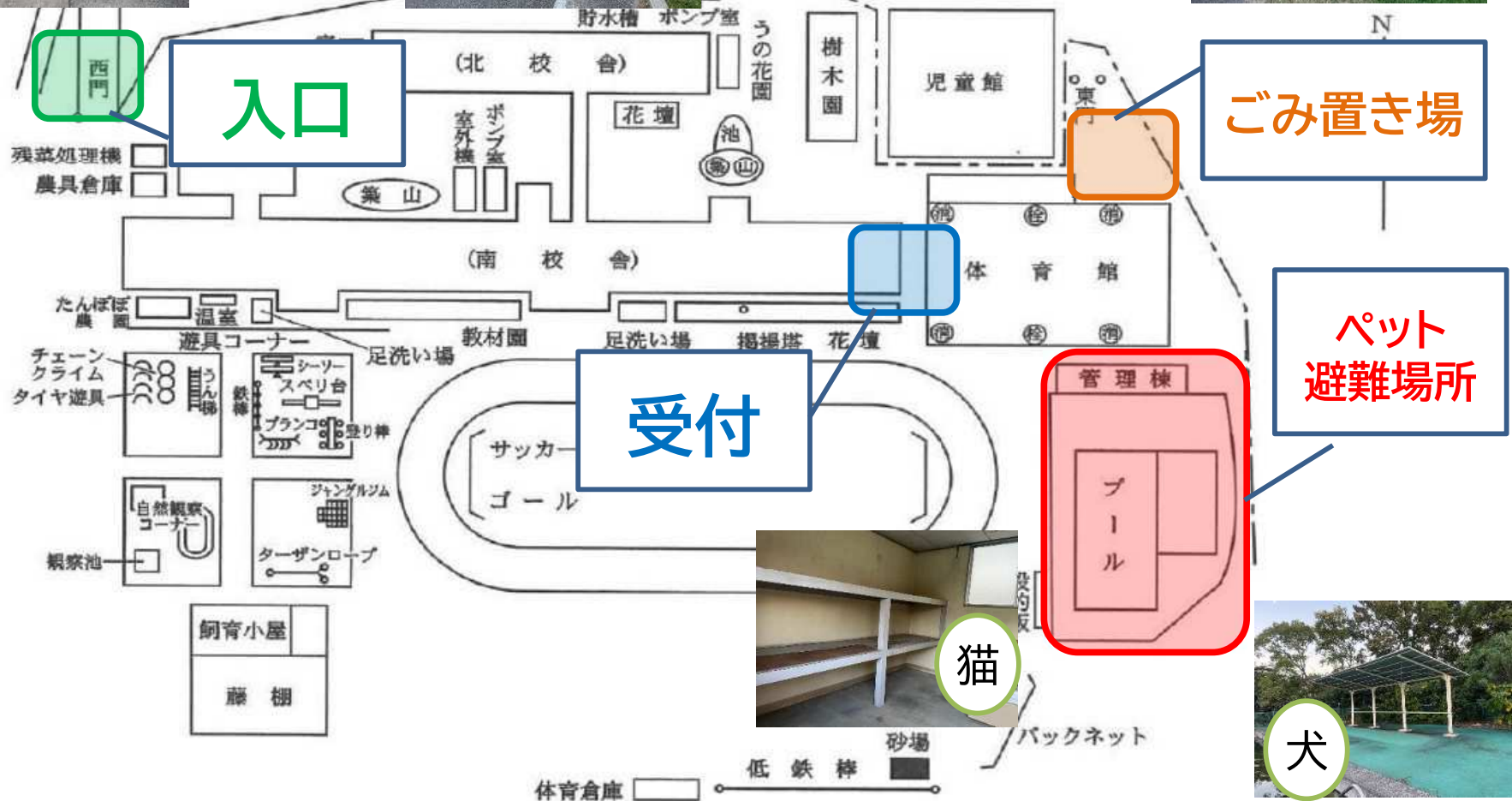
今日は、1～7を
やりましょう

No	ミッションの内容
1	同行したペットの仮置き場を設置しましょう。
2	学校入口にペットの仮置き場への案内表示を貼りましょう。
3	犬の飼育スペースを設置しましょう。
4	猫の飼育スペースを設置しましょう。
5	同行避難ペットの受付を設置しましょう。
6	ペットの受け入れを開始しましょう。
7	避難してきたペットに迷子札を着けましょう。
8	ペット関連掲示板を設置しましょう。
9	ペットの排泄物の廃棄方法と廃棄場所を決め、案内しましょう。
10	ペットに関する注意書きのポスターを掲示しましょう。
11	飼い主を集めてルール確認をしましょう。

A photograph showing a paved road leading towards a building. On the left side of the road, there is a white container and several orange traffic cones. The building has a yellow facade and multiple windows. The road is bordered by a concrete curb on the left and a grassy area with trees on the right.



入口





③総括

◎避難所設営の問題点

- ・大型犬が居た場合の配置
- ・ヒート状態の犬を分けれるか
- ・エキゾチックアニマルの避難時の対応

◎避難所に必要なもの

- ・猫には個室が欲しい
- ・スターターキットをミッションカードに合わせて準備
- ・各避難所にケージを常備
- ・ミッションカードに挿絵等を入れる



③総括

◎避難所に必要なもの

- ・誘導する矢印看板（当日書き込み出来るもの）
- ・防災ラジオ
- ・養生テープ、ガムテープを多めに
- ・懐中電灯・・・各避難所2つ

◎平時に周知すべき事項

- ・不妊去勢手術の徹底
- ・備蓄場所を周知・明確化
- ・スターターキットの周知



③総括

●事務局から基本的な考え

基本は・・・住民自ら災害に備える「自助」

さらに、この訓練のような地域やグループで防災に取り組む「共助」を充実させることが重要！！

・特にペットの防災対策では、避難所運営者がペットより人への対応を最優先に進めざるを得ない事情もあることから、飼い主が自ら避難所でのペット受け入れやルールづくりに協力が必要

再度「自助」の重要性を説明！！



訓練の実績

- 参加者等

飼い主の参加者 10名

参加したペット 犬：8頭 猫：5匹

協力団体 愛知県動物愛護センター知多支所
東浦地域ねこの会
三丁公園わんずらぶ



訓練の様子

- 犬と猫にかかれて避難スペースの設営を行いました



受付窓口



看板の設置



避難スペース



ペット避難スペース
入口



猫の避難スペース
(プールの更衣室)



犬の避難スペース
(日よけ)



猫の避難スペース



更衣室の棚にケージを
設置しました

実際にケージの中
に猫を入れました





猫の避難スペース 2



受付番号をケージに
貼りました



更衣室の壁を、犬猫共通のペット
関連の掲示板にしました



犬の避難スペース



日よけにリードを
繋げました





犬の避難スペース 2



更衣室にあった卓球台
を利用して、雨をしの
ぐ屋根としました





犬の避難スペース 3



ビニールシートを設置し、雨風をしのげるようにしました





その他



愛護センターの物品
を参考に、備蓄品の
確認を行いました





新聞掲載記事

愛知県 11/21 (木) 知多版

**ペットと飼い主
一緒に避難訓練**
飼育場所の準備確認

東浦 東浦町は17日、同町森岡小学校で開催した町総合防災訓練の一環で、ペットと飼い主が一緒に避難所に逃げる「同行避難」の訓練を初めて行った。犬8匹、ネコ5匹と飼い主らが参加し、飼育場所の準備の流れなどを確認した。

飼育場所は、避難者の生活スペースと離れたブルーの敷地内で、犬は目よけの柵にリードでつながれた。飼い主は「腰内です」「触らないで」と書かれた紙を近くに掲示したり、雨風をしのぐブルーシートを張ったりした。ネコは1匹ずつケージに入り、ブルーシートの部屋に移された。町内の犬の飼い主らでつくるミニマニエー三丁公園わんぱく広場の屋上しげみ代表は、愛犬2匹と参加。「ペットを連れての避難も飼育場所の設置も一人では大変。飼い主としての連携と事前の周知が大切」と実感をもてた。

町環境課の担当者は「同行避難について課題の洗い出しを進めている段階。訓練を踏まえ、どういった必要か検討していきたい」と話した。

(奥村 節子)

ブルーシートなどを使って飼育スペースをつくる飼い主ら＝東浦町森岡小で

©中日新聞社 著作権は中日新聞社または契約通信社、友好社、外部筆者に帰属します。無断転載、複製、頒布等は著作権法により禁止されています。切り抜きした画像は個人や家庭に準じる範囲でご利用ください。